

ト★ 東星学園だより

TOSEI

東京都清瀬市梅園 3-14-47 TEL 042-493-3201 <http://www.tosei.ed.jp>

□ 西武池袋線秋津駅 南口 徒歩 10分 □ JR 武蔵野線新秋津駅 徒歩 15分

vol. 12

卒業していく高3生へ

校長・園長 大矢 正 則

高3生の皆さん、卒業おめでとう。東星を巣立っていくあなたがたの前途はどんななのだろう。神様はそれぞれの人に幸せになる道をすでに用意してくださっているので、心配はしていない。しかし、神様が用意してくださっているその道を見つけるのには人間側の努力を要する。その努力は我慢といってもいいかもしれない。どれだけ努力しなければならぬか。どれだけ我慢しなければならぬか。ひょっとしたら、どれだけ失敗しなければならぬか。それもまたそれぞれに用意されていて、いくら努力しても報われなと思うってしまうこともあるかもしれない。叫びを上げたくなるほどの我慢を強いられるかもしれない。大失敗に後悔する日が来るかもしれない。他人と比べてしまうときに、そのような思いは強くなる。

残念ながら神様はあなたに対して、他人と同じような成功を用意はしていない。神様はあなたが、他人と同じ努力をしたところで、同じ報いを用意はしていない。同じ我慢をしたところで、他者と同じようにそれを取り除いてはくれないかもしれない。失敗に失敗を重ねる日々があるかもしれない。それぞれに別々の過程と結果が用意されている。そしてその結果は意外なものである場合が多い。これは神様の不公平なのか。

そうではないと思う。神様は一人ひとりをそれぞれユニークな方法で幸せにしてくださる。ユニークとは変わっているというふうにとられがちで、それぞれほどの外れではないが、むしろ、『唯一の』とか『固有の』とか、そういった意味ととらえてほしい。神様は一人ひとりの人間に特別な使命——それは試練といってもいいもの——を与え、すべての人にその使命を達成できる、言い換えれば試練を乗り越えられる道まで用意してくださっている。コリントの信徒への手紙(一)に、「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」(10章13節後半)と書かれていることを思い出してほしい。

だから、他者と同じ努力をしても、同じ結果は得られない。他人とは違う苦しみを味わい、違う失敗をし、

違う試練に遭う。もちろん、喜びや達成感も味わう日が来る。これもまた、他者とは違う味わいを呈することとなるだろう。もしも、古典物理学の因果律のように、あるいは、数学の関数のように、同一の原因・入力に対しては、同一の結果・出力が得られるのであったら、人生は味気なく、世の中は殺伐とするだろう。なぜなら、その場合、誰もが同じ方法・目的でしか成功できず、また、たとえば、貧困者は一律に努力しなかった人という烙印を押され、彼等は神様が用意した道を歩まなかった人とみなされ、蔑まれるだろう。今でさえ、そのような視点を持った者が多数かもしれない。この考えは間違いである。

日本のどこかで毎日のように、若者から意味もなく暴力を受ける路上生活者(野宿生活者)がいる。一方、路上生活者が若者に危害を加えることはない。路上生活者は雨の日を嫌う。なぜだかご存知だろうか。それは、雨に濡れるからではない。路上生活者は雨に濡れることを防ぐ生活力は持っている。そうでなければ、路上生活はできない。彼らが雨の日を嫌うのは、その日、若者が皆、凶器となり得るものを持っているからだ。それは傘だ。

東星が開校したときから教え続けていることは、世の中で弱者とされている人の中にも神様がいるということ。いや、正しくいえば、すべての人の中に神様はおられるので、苦労している人には特に心を向けなければならないということ。それはその人が悪いからではなく、その人に用意された幸せになる道がこの世では困難を伴っているのだから、同じ神様によって造られた者がその人の苦労を少しでも理解し共感しようということ。こういうメッセージを東星学園は創立以来ずっと発信してきた。フロジャク神父様の生き様がそれだ。学校だから当然勉強も教えるけれど、それだけなら公立学校や他の私立学校に任せればよかった。しかし、いま書いたこと——すべての人の中に神様がいるので困っている人に会ったら助けること——はどうしても伝え続けたかった。そのために東星学園は存在し続けるし、人間の存在意義の一つはそこにある。つらい思いをしている人のために、周囲の人は存在する。

だから、あなた自身が困ってしまったときは、すぐに誰かに助けてもらうこと。いつでも東星に帰ってきてほしい。先生方が聴いてくださることを約束する。

中学校・高等学校

東星の体育祭

体育祭委員長 高等部3年 Y. H

今年の体育祭はとても肌寒いことが印象的でしたが、そのような中でも体育祭をやりきれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

個人的な事になりますが、私は小学校から12年間東星学園で体育祭をやってきました。その中で最近特に感じていることがあります。それは、「一人ひとりがやり切ろうとする気持ちを持っている」という事です。

毎年夏休みが明けて本格的に体育祭への練習が始まると、体育祭練習に対して全体的にネガティブな気持ちになる人が多くなるように感じます。しかし、本番が近づくとつれて自然と前向きな気持ちになる人が増

え、集中力が高まり、本番ではみんな本気で楽しんでいるのです。これはみんながやり切ろうとしなければできないことだと思います。

東星は小規模ですが、だからこそひとりひとりの体育祭に対しての思いが色濃く表れるのだと思います。

今年も一人ひとりのやり切る思いを誇らしく感じる体育祭ができたと思います。



学習旅行を終えて

学習旅行企画委員長 高等部2年 N. Y

私たち高校2年生は、テーマを「飛躍」、学習地を「山口」とし、12月5日から8日までの4日間学習旅行へ行ってきました。

学習旅行を創り上げていくなかで、山口県があまり観光地ではないこともあり、班活動の予算が足りなくなるというハプニングもありましたが、先生方や交通に詳しい企画委員の協力もあり、行きは飛行機ではなく、新幹線にするなどの工夫をし、解決することが出来ました。なかなかスムーズに準備を進めて行くことは出来ませんでした。その分、私たちらしい学習旅行になったと思います。

1日目は全体学習でサビエル記念聖堂に行きました。聖堂は光、水、形がモチーフとなっていて、光は聖堂内部に太陽や星などのステンドグラスが多くありました。また、水は洗礼を授けたことからモチーフとなったようで、聖堂の脇と庭に水が張ってありました。形



は建物自体が、聖書に記された神の幕屋をイメージしているそうです。祈りの集いでは、山口県が日本で最初のクリスマスミサが行われた地であることやサビエルについてなどを神父様がお話ししてくださいました。

2日目は山口市を拠点に班活動を行いました。今回、私たちは、自然、生物、倫理、歴史、神社仏閣、伝統文化の6つの観点から山口県について学びました。

3日目は山口市から萩市に拠点を移しました。山口から萩に向かうバスでは、バスガイドの方が、山口県の特産品や方言、吉田松陰についてなどを説明してください、とても面白い内容で勉強になりました。萩に着いた後は各班班活動を行いました。それぞれ2日間の班活動では、現地の方の温かさに触れ、より学びを深めることが出来たと思います。

4日目は全体学習で秋吉台、秋芳洞の見学をしました。秋吉台は、終戦後アメリカ軍の演習場として使われそうになったところ、地元住民や世界中の研究者が反対し、現在の秋吉台があるということにとっても驚きました。秋芳洞では、数々の神秘的な造形をした鍾乳石を見ながら、どのようにそれが形成されていったのか説明を聞くことが出来ました。

今回の学習旅行で私たちは、現地に行かなければ感じられないことや、学べないこと、さまざまな体験を通し、多くのことを吸収することが出来ました。この経験を生かし、学年全体で大きく成長していきたいです。

最後になりましたが、この学習旅行が実りあるものとなったのは、学年の皆や先生方、家族など多くの方の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

共に感謝する

聖書朝礼委員長 高等部2年 T. H

今年度の中高部クリスマス会は、「共に感謝する」というテーマのもと行われました。

2018年は、全国各地で地震や、豪雨などの自然災害が相次ぎ、たくさんの方が被害に遭われました。そのため、聖書朝礼委員会の中で、毎日を何気なく過ごすことが出来ているということをクリスマス会を通して一緒に感謝したいということが、聖書朝礼委員の中で話し合われ、このテーマに決まりました。

毎年中高部のクリスマス会は、高等部2年生の音楽選択者によるハンドベル演奏から始まります。今回演

奏された「地にも空にも～サンタが街にやってきた」はクリスマス会にとってもふさわしい、美しい演奏でした。

その後、共にクリスマスミサにあずかり、イエス様のご降誕をお祝いしました。今回のクリスマス会で集められた募金はカリタスジャパンの「クリスマス募金」に送られ、世界中の恵まれない子どもたちのために使われます。

クリスマス会の最後に全員で合唱した「ハレルヤコーラス」は、少ない練習時間でしたが、本番ではとても美しい合唱になりました。

今年度のクリスマス会が無事に終わりとても嬉しく思います。そして2018年を楽しく幸せに過ごせたことにも感謝したいです。



卒業に向けて

卒業式企画委員長 高等部3年 Y. K

卒業式の企画が始まりました。私達は卒業式のテーマを「実」としました。私達52期の今までの行事のテーマを振り返ると、入学式では新たに生じ、これから発展しようとするものという意味が込められた「芽」、中学学習旅行では東の星の輝きを学年一人一人が放っていきけるよという思いを込めた「輝」、高校学習旅行ではそれぞれ大切なつぼみを成長させ、自分らしい花を咲かせられるよという思いを込めた「咲」でした。これらの行事や普段の学園生活の中で一人一人が自分の「芽」を「輝」かせ、「咲」かせてきました。そして、私達にとって東星学園最後の行事である卒業式では、今までの学園生活の集大成として、学んだ成果を「実」らせられるよという思いを込めました。また、東

星での実りを新たな種として、それぞれの場所で一人一人がその種を育てていけるよという思いも込められています。

私は小学校から12年間、この東星学園で過ごしてきました。その12年の最後の行事である卒業式に企画委員として取り組むことは、不安でもありますが、同時にとても嬉しく思います。自分ができることに精一杯取り組んで、思い出に残るよな式にしたいと思います。

学園生活も残り1ヶ月となりました。卒業式が終われば、私達はそれぞれの進路へ進んでいきます。また、今も受験に向けて勉強に取り組んでいる人もいます。それぞれが今自分にできることを一生懸命行い、悔いの残らないよように、残りの時間を楽しく過ごしていければと思います。

小学校

あなたがたは 世の光である

教頭 河村 輝

小学校では、日々の生活の中で、自然に神さまからのメッセージが体にしみ込み、子どもたちの価値観に結びついていくことを願って、月ごとに聖書のことばなどを教室や廊下、特別教室に掲示しています。担任や宗教の担当者がそのことばの意味を説明したり関係する話を展開したりしています。校庭朝礼で教頭が取り上げることもあります。今は理解できなくても、すぐに忘れてしまっても、将来、人生のどこかの瞬間に、自分を支えることばとしてよみがえってくれたらと願っています。

1月のことばは、「あなたがたは世の光である。…あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。」(マタイ5・14、16)でした。省略された部分は次のような内容です。「山の上にある町は、隠れることができない。またともし火をともして升の下におく者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。」夜空に瞬く星、灯台のともし火、かがり火や家の灯り、私たちの生活には私たちを明るく照らしてくれる光や導きとなる灯りがたくさんあります。光は人に見られるものです。人に見られないよう

にしたり、見えないところにおいたりすることは意味のないこととなります。光のこのような意義を使ってイエス様が話されていることは、神さまの示された価値(人間が大切にすべきこと)が、ただ狭い意味での宗教とか信仰の世界のものではなく、日常の生活の中で全ての人々に当てはまることであるということです。

東星学園での生活で、児童はイエス様のみことばや行いを通しての教えに触れます。私たちも普遍的な真理として教え、体験的にも伝えようとしています。児童たちが成長し自分の人生を歩む時に大切な柱になると信じ、そうなることを願っているからです。ですから、ともし火をともして升の下におくように、大切な価値を学園だけで通用するものとしなくてほしいと思います。自分の財産として世の中に持ち出してほしいと思います。

「自分の光を人々の前に輝かすこと」それは決してスーパーヒーローのような生き方ではなく、自分の弱さに振り回されながらも、誰かに寄り添い、希望をもつてともに生きようとするような生き方そのものの中に期待されているように思います。それは一人の力では難しいことです。神さまが共にいてくださること、誰かが共にいてくれることによってできることです。

私たち東星の教員はこうした関わり、寄り添いを大切にしていきたいと考えています。

クリスマス会

5年担任

12月19日にクリスマス会がありました。1年生から6年生まで、この日におけて準備を進めてきました。待降節に入ると、3年生が作ったクリスマス会のポスターが学校の色々な所に貼られ、児童ロビーには、2年生が作ったクリスマスリースや雪の結晶、4年生の作った呼びかけの言葉が飾られました。

今年の呼びかけの言葉—クリスマス会のテーマは、「東の星が かがやくとき」。学校名でもある、「東の星」がかがやくときはいつ?その時をどう迎えればいいのか?そんなことを子ども達がそれぞれ考えました。「おともだちにやさしくする」など、クリスマスに向けて大切にしたい気持ちを確かめ、心の準備もしました。

クリスマス会当日。カトリック秋津教会でのミサから始まりました。それから、場所を移して講堂へ。講堂には、1年生が作った天使とベルの工作が飾られています。講堂では、聖劇『ダビデの町 ベトレヘム』と、「みんなで歌おうクリスマス」を行いました。

聖劇は、毎年5年生が担当します。11月に台本が配られ、練習を重ねてきました。「聖劇は、お祈りの劇。5年生一人ひとりが自分の役割をしっかりとやりとげて欲しい」と最初に伝えてスタートした聖劇です。当日、子ども達はそのことをきちんと自覚し、聖劇をやりとげてくれました。少ない人数ながらも、きれいな歌声

を響かせてくれた聖歌隊。緊張しながらも、堂々と舞台上に立った役者。案を出しあい舞台の大道具を作り、役者の小道具を修理してくれた道具係。そして、初めて使う機器を使いこなし、舞台を照らしてくれた照明係。全員で力を出し、すばらしい聖劇になりました。

クリスマス会の最後は、「みんなで歌おうクリスマス」です。6年生の迫力ある器楽合奏を伴奏にし、みんなで元気いっぱい「ジングル ベル」や「赤鼻のトナカイ」など、5曲のクリスマスソングを歌いました。

その後には、クラスでクリスマスカードの交換会が行われました。全校児童と教職員で行うクリスマスカード交換。「〇〇くんのもらったよ!」「私ののは、だれに配られたかな?」作った人の心がこもったカードです。大切そうに持ち帰った子ども達でした。



第47回スキー教室(12/26(水)～28(金))

引率担当

スキー教室が長野県・湯の丸高原で行われました。今年のスキー教室は、暖冬のため積雪が心配されましたが、みんなの想いが届き、天候に恵まれ充実した日々を過ごすことができました。

学校を出発してからは、久しぶりに会ったお友達とお話になり、バスの中は賑やかでした。K先生のバスのレクリエーション「何をつくっているでしょうか(ジェスチャー)」ゲームでは、開始早々当てる4年生の児童達。ひっかけジェスチャーもあり、難問を要求する児童に真剣な表情で応えるなど、バスレクが盛り上がりました。その後、去年のDVDを流し始めると、「早く到着しないかな」「早く滑りたい」という声が聞



かれ、心が弾んでいる様子でした。

ホテル到着後、ほとんどの児童はすぐにスキーウェアへ着替えてから昼食をとっていました。食べ終わった後は廊下をウロウロし、落ち着かない姿が多く見られました。中には、ゴーグルまでかけてすぐ滑れる状態の児童もいたり…。今回スキーが初めての児童は、ウェアやブーツを見ただけでも笑顔がこぼれていました。児童達のワクワク感は、学校生活では見られないほど、準備の早さに表れていました。

ゲレンデに移動をした児童達は、嬉しさのあまり雪を丸めて雪だるまや雪合戦、新雪を食べるなど、思い思いに自然の雪と戯れていました。開校式後は各班に分かれ、スキー教室の始まりです。今回動いていたリフトは4つあり、中級、上級はクラスに合わせ、慣らしながらコースを何度も滑りました。初心者班は、板を付けて歩くのも一苦勞。日常履きなれている靴とは違い、思うように進まなくても、転んでも楽しみながら滑っていました。

夕食後は、ビデオでその日の滑りをみんなで振り返り、ミーティングをします。その後は、他の宿泊行事とは異なり、お部屋でテレビを見たり、トランプをしたり、思い思いに楽しいひとときを過ごしました。

自然の恵みを大いに感じとりながら過ごした児童達は、滑るたびにスキーの難しさとおもしろさを実感することができました。一人一人、スキーだけではなく心も体も成長を感じた3日間でした。

朗読大会

2年担任

第43回朗読大会低学年の部・高学年の部が行われました。題材は、1年生「ろくべえ まってろよ」、2年生「おまえ うまそうだな」、3年生「サーカスのライオン」、4年生「さんちき」、5年生「よだかの星」、6年生「きつねの窓」でした。国語の授業で題材の内容を学習し、朗読のポイント『語句、点や丸の正確な読み』『しっかりと声を出す』『主題を捉え、内容にあった表現』『心情、情景が浮かんでくるような読み』を確認して、子ども達は家でも朗読練習を頑張りました。練習の成果を国語の授業で発揮し、お互いの朗読を真剣に聞きました。各クラス代表者2名、補欠2名を決めました。選ばれた子ども達は、講堂のステージでマイク練習も行いました。

本番は、緊張している表情の子もいましたが、1年生も、落ち着いてよく読んでいました。句読点も、意識して読んでいる子が多かったです。テンポよく読みながらも、間の取り方を考えた読みができていました。練習通りに読めた子もいれば、練習の時より声が小さくなってしまった子もいましたが、聞いている人達に、

物語の内容をしっかりと伝えていました。登場人物の気持ちを考えながら、会話文を工夫して読んでいる子が多くて、感動しました。朗読大会当日、風邪気味で声を出すのが辛そうな子もいましたが、最後まで読み切る姿が立派でした。昨年も代表で出場した子は、今年、更に上手になっていて、成長が伝わってきました。

1年生は、朗読大会終了後、「読むのが楽しくなった。」と、言っていました。いやいや読むのではなく、自分から楽しんで読めるようになってくれたことが、指導していて、とても嬉しいです。

児童の投票で『カナリア賞』、職員の投票で『ひばり賞』、委員の職員の投票で『うぐいす賞』が決定しました。惜しくも賞に入らなかった子達も、神様からいただいた才能を開花させ、これからも、朗読を楽しんでもらえたらと思います。



とうせいキッズ

いつも元気「ぐんぐん」の活動

とうせいキッズ兼小学校職員

月曜日から金曜日まで、毎日4時になると学校の授業を終えて4年生から6年生の児童がぐんぐんの部屋に集まってきます。

「こんにちは。」と元気な挨拶の後、外でバトミントンをしたり、縄跳びをしたり、部屋ではトランプやウノ、四字熟語カルタなど思いおもいに仲間と遊びます。4時30分頃より「おやつタイム」。お菓子だけではなく、おにぎりやパンなど夕食にひびかない程度にお腹を満たします。その後、一時間ほど学習の時間になります。内容はその日に出された宿題を行うことを中心にしていますが、それ以外に学習する教材も置いてあります。分からないことや質問、ヒントは先生だけでなく仲間と話し合ったり、教え合ったりしています。時には、難しい問題など皆で考えたりもします。

何をやるか、どこまでやるかは、自分で学習計画を立てて進めていきます。

このように、毎日少しずつではありますが、着実に

学習に取り組む姿勢を仲間と大切に積み上げていきます。一人ではなかなか続けることは難しいですが、仲間と一緒に取り組むことでできるようになっていくことは、児童自身もうれしいことだと思います。



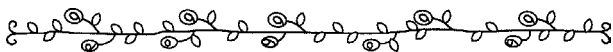
今日のおやつは
何かな？

そして、帰りの会ではその日の感謝とまた明日頑張れるよう皆でお祈りをしてから帰宅します。



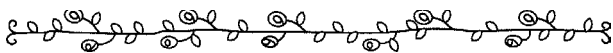
楽しくみんなで
いただきます。

さて、
今日のお勉強は
何でしょう？



2歳児のあそび（プレスクール）

幼稚園職員



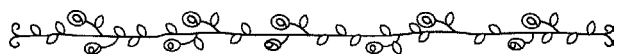
とうせいプレスクールは、2歳児が週1回通うクラスです。毎年5月にスタートして、10月まではお母さんと一緒に、11月からは子ども達だけで通っています。2歳の時期に、手の感触でいろいろな経験をして、手をしっかり使えるようになってほしいと願い、粉、粘土、えのぐ、寒天、木の葉、木の実、新聞紙、フラワーペーパーなどのいろいろな素材に触れ、遊びの中で味わい、楽しんできました。9月と11月に、もみじ、いちょう、さくら、かき、びわ、ハナミズキ、もみの木、つばきなどの木を一枝ずつ切ってきて、葉を1枚ずつ枝からちぎり取って遊びました。ツルツルの葉、うっすら毛が生えている葉、薄く柔らかい葉など様々な触り心地を楽しみ、瑞々しい緑色の葉、赤や黄色に色づいた葉、茶色く枯れてきている葉など、夏と秋の色の違いを味わいました。ブルーシートの上で作業していると、シートを池に見立てて、「(葉っぱの)おさかないっぱいだね！」と葉っぱの中で泳ぎっこをしたり、葉を取りきった枝で魚釣りをしたり、遊びがどんどん広がっていきます。

東星学園幼稚園の教育は、いつでも子どもが主役です。子ども達が自分達で考えて話し合って、毎日の遊びやいろいろな行事をみんなで作っています。それは、プレスクールも同じです。まだ、話し合ったりはできませんが、集中して遊んでいくと、自然にいろいろな試行錯誤が始まり、真似してみたり、アレンジしてみたりしながら遊びが深まります。毎回の活動のテーマは決めています、遊びの様子を見てどんな方向にも遊びが発展できるように準備しています。準備といっても、紙、クレヨン、テープなどの材料や、空き箱、空いたプリンカップなどの道具となるものを手の届くところに置いておくだけですが、葉っぱの下にブルーシートがあればそこが池になるように、カップがあればおままごとが始まり、紙に葉をテープで貼れば素敵な飾りができたりします。2歳児にも遊びを発展させていく力があり、遊びの中で手を使うことで、手洗いや着替えなどの身の回りのことも自然にできるようになっていきます。プレスクールで遊ぶ中で、たっぷり手を使い、友達と関わり、身体も心も成長して、少しずつ「みんなといっしょ」という集団生活の雰囲気を知っていきます。今年度のプレスクールは3月で終了です。最後の日にはみんなでお弁当を食べて幼稚園での時間をたっぷり楽しみます。子ども達の4月からの生活がのびのびと楽しいものになりますように。

幼稚園

保育の様子

幼稚園職員



さて、いよいよ三学期が始まりました。幼稚園ではお正月遊びをたくさん用意して子どもたちを待っていました。こま・カルタ・すごろくなど、最初はルールが分からなかったり難しくてできなかった事もチャレンジしています。こまやけん玉は一生懸命練習してどんどん上達していく子ども達。それを見ていたら、私たち職員もうすうす。大人も子どもも夢中です！



また、三月の卒園に向けての準備も始まります。

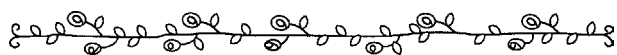
年長天使の組では、お友だちの大切さを意識して過ごしています。お友だちの良い所も悪い所も認め合っている。そんな想いから「このこどんなこ？」を始めました。一人ひとりの友だちについて、みんなで思ったこと

を発言していきます。はじめは「髪が短い」「かわいい」など見た目に関する事が主でしたが「見えないもの、心で感じたことを見つけてみよう」と言うと「泣いてるとき優しくしてくれた!」「ちょっとイタズラ!」「怒るとこわい。」「いつも面白い!」など色々な言葉が出てきました。大好きなみんなと一緒にいられるのもあと少し。お互いの存在の大きさを改めて感じています。

四月に入園してくる小さなお友だちを迎える準備も少しずつ始まっています。半日入園では短い時間ですが在園児の中に混ざって楽しい時間を持っています。四月に年長になる星の組、今までは一番小さくてお兄さんお姉さんに助けられていた年少花の組がとっても張り切って準備をしてくれています。おうちの方と離れて泣いている子がいると、「だいじょうぶだよ」と頭をなでてあげる姿もありました。

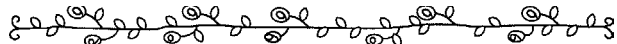


毎日元気に大きくなっている事を神様に感謝し、もうすぐ進級する喜びを感じながら、残り少ない三学期をみんなで仲良く、楽しく、元気いっぱい過ごしていきたいと思います。楽しい思い出ができますように。



収穫って嬉しいね! (畑の活動)

幼稚園職員



9月、大根、聖護院大根、かぶの種を植えました。毎日水やりに行ったり雑草を抜いたりお世話をし、12月に収穫をしました。子ども達は大きくて形の良いものを選んで持ち帰ったので、畑には小さなうすらの卵くらいのかぶ、ごぼうのような大根が残っていました。さて、残った野菜をどうしようか?冬休みになってしまったので職員で話し合い…切干大根(かぶ)にしてみました!

3学期が始まり、子ども達に切干大根(かぶ)を紹介すると、食べたことのない子・知らない子が半数以上でした。「食べたーい!!」という声がたくさん出たので、近日中に煮物にして子ども達といただく予定です。

現在の畑は9月に植えた秋じゃがいもを残すのみとなりました。昨年の夏に収穫した時は子ども達の要望で一昨年食べたガレット(千切りにしたじゃがいもに片栗粉とチーズをまぶして焼いたもの)にしていたいただきました。昨年の秋じゃがいもはカレーにしていた

いています。今年も2月にカレーパーティを予定しており、収穫が待ち遠しいです。秋じゃがいもが収穫出来たら一度畑をきれいに掃除し、来年度美味しい野菜が育てられるように準備していきたいと思えます。



広 報

あなたが入学する学校 そこがあなたにとって 一番の学校です

これは、東星学園全体の広報活動におけるキャッチコピーになります。

東星学園では、カトリックの教えに基づいて一人ひとりに丁寧に向き合っています。その中であなたは『あなただから』大切な存在。あなたは何かができるから、褒められるところがあるからではなく、『あなただから』大切な存在である。あなた自身に自分らしさを発揮してもらいたい。そして、そのような場所は、一人ひとりに必ず与えられます。それは東星学園であるかもしれませんし、

そうではないかもしれませんが。

しかし、どの場所であっても、

“あなたが入学する学校、そこがあなたにとって一番の学校です”

“もし、あなたが東星に入学したら、私たちにしても、あなたが一番の園児、児童、生徒です”

日々、本校の教育活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。



学園行事予定 (2019年3月)

| | 中学校・高等学校 | 小学校 | 幼稚園 |
|----|---|---|---|
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業式 期末テスト 祈りの集い GTEC 中学生ビブリオバトル大会 進級判定会 終業式 | <ul style="list-style-type: none"> 6年生を送る会 卒業感謝のミサ、6年生懇談会 卒業式リハーサル 卒業式 終業式 | <ul style="list-style-type: none"> 卒園お楽しみ会 卒園式リハーサル 卒園式 終業式 |

園児・児童・生徒の活動報告

秋季清瀬市民卓球大会

1部トーナメント

| | | |
|-----|---------|------|
| 優勝 | 6年いちょう組 | B. A |
| 準優勝 | 4年いちょう組 | K. S |
| 3位 | 5年いちょう組 | T. N |

2部トーナメント

| | | |
|-----|---------|------|
| 優勝 | 5年いちょう組 | F. M |
| 準優勝 | 5年いちょう組 | T. H |

第33回 WE LOVE トンボ絵画コンクール

小学6年生の部

入選 6年けやき組 T. K

東京150年記念絵画コンテスト

高学年の部

入賞 5年いちょう組 F. M

第68回全国高等学校

フィギュアスケート選手権大会出場

(東京都代表) 高校1年2組 M. H

2018年度もあと1ヶ月余り、そして「平成」も残すところあと2ヶ月程となりました。まだまだ寒い日が続く中ですが、もうすぐ卒園、卒業、そして各学年のまとめの時期を迎えています。今年度もたくさんの方々を支えていただきました。ありがとうございます。来る2019年度が、素晴らしい1年でありますように。